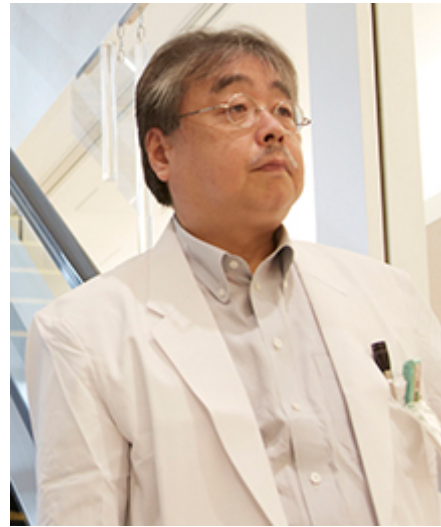


脳神経外科

脳卒中に対する 一貫した治療体制を整備

脳神経外科部長/脳卒中センター長

藤本 康裕



脳卒中の救急対応に全力で取り組む

脳神経外科は、脳卒中をはじめとして、脳腫瘍、特発性正常圧水頭症、頭部外傷など、脳に関連するさまざまな病気を扱います。特に“脳卒中”とは、脳の血管が詰まり脳組織が死滅する脳梗塞と、脳の血管から出血し脳組織を破壊する脳出血や、脳動脈瘤が破裂するくも膜下出血などに分類され、脳の血管のトラブルが原因で発症する病気です。

戦後、日本人の死因トップだった脳卒中。現在は1位・がん、2位・心疾患に次いで3位になりました。ただし脳梗塞の患者さまは近年、全体的に再び増加傾向にあります。食生活をはじめとする生活習慣の欧米化により引き起こされるタイプの、脳の太い血管や頸動脈が詰まる従来の欧米型のアテローム血栓性脳梗塞や、不整脈の有病率が上がる高齢化社会において、心房細動という不整脈が原因となる心原性脳塞栓症の増加が特徴的です。

脳梗塞の治療ではt-P-Aという血栓を溶かす薬物療法が有効な場合もあり、この薬剤を静脈に注射することで劇的な回復がみられるほか、後遺症を軽減させるなど効果が期待できます。しかし発症後4.5時間以内に使用する必要があるため、脳梗塞の疑いがあれば一刻も早い脳卒中専門施設への受診が望まれます。

そうした脳卒中に対し、当病院では脳卒中对応専門の当直医師を配備するなど、24時間365日体制で患者さまの受け入れに備えてきました。さらに新病院では、手術室、集中治療室など設備面の高機能化も実現。MRIやCT、手術ナビゲーションシステム、術中神経モニタリング装置といった高度先進的な医療機器も拡充させ、より安全で質の高い治療を可能にしています。

他科とも連携し患者さまをサポート

脳卒中の治療においては、もうひとつ。新病院に開設した回復期リハビリテーション病棟も、極めて大きな意味を持ちます。これにより、脳卒中の早期診断から急性期治療、発病翌日からの超急性期リハビリ、回復期リハビリという、一貫した流れを院内で完結させることができる治療体制が整い、患者さまの社会復帰に向けてバックアップがスムーズに行なえるようになりました。

さらに設備面の充実だけでなく、合併症を併せ持つ患者さまに対して、病院内各専門診療科や専門看護師、ソーシャルワーカーとの連携強化により、高度なチーム医療の実践を心がけております。たとえば、回復期リハビリテーション病棟では、生活習慣病関連の診療科と共同。患者さまへの脳卒中の啓蒙も入念に行なえるようになっています。

病院の使命は、質の高い医療を、誠意をもって行なうこと。それはよりよいチームワークがあってこそ実現します。当科ではこれまで以上に、医師、看護師、コメディカルスタッフが一丸となり、他科と手を携えながら、脳卒中をはじめとした脳疾患の治療・予防に注力していきます。